

大会によせられた メッセージ

2013年9月4~5日

全学連 第74回定期全国大会

◆星野 文昭

高崎経済大学出身

1971年11・14 沖縄返還協定批准阻止闘争戦士

「殺人罪」でっち上げで無期懲役

徳島刑務所在監、獄中 39 年

学生の団結した力で「金儲けと支配」の大学を学生の手に取り戻す闘いが法大から全国に拡大し、大恐慌－3・11 情勢の下、全国・全世界の労働者人民の命より金儲けの新自由主義の世の中を団結の力で変える闘いを青年労働者と共に牽引していることに感動しています。その闘いと一つに全証拠開示、再審・釈放の闘いによって無実の無期からの解放をかちとることに挑戦していることにも、心から感動し励まされています。

今日の全情勢は、資本の利潤のために世の中を動かすということでは大恐慌・戦争の破局しかもたらさず、これを労働者人民の団結した力で変え、人間本来の社会を取り戻すことを突き出しています。

資本が労働者から搾取することでどこまでも肥え太ろうとする資本主義は、1974－75 年恐慌という戦後の行き詰まりを新自由主義によって突破しようとして歴史的な過剰資本を生み、大恐慌を生み、新自由主義・大失業・戦争によって職場・生活と命を奪う以外になくなっています。唯一ののり切り策、財政・金融政策は財政破綻と増税・社会保障解体、バブル崩壊とインフレの破局を生んで過剰資本を解決できず、過剰資本にとって狭くなり過ぎた市場・資源・勢力圏をめぐって資本・国家の間の死闘的争闘戦を激化し、一方で労働者人民への雇用・賃金・生活破壊を強め、一方で経済・政治・軍事対立を強め、再び三度、大破局を強いる以外になくなっています。資本とその国家の命脈は尽き、全世界の労働者人民の怒りは一つであり、その闘いは一つです。

このなかで私たちの動労千葉・水戸を先頭とする階級的労働運動・国際連帯が全ての労働者人民の勝利の武器として鮮明になっています。

先の衆参選挙による自民大勝によっても新自由主義・原発・改憲・戦争を進める自民政権への怒りは圧倒的に大きく、事実、衆参どちらも自民の得票

数は前よりも減っており、大勝は民主等対抗勢力への失望・激減によるもので、大恐慌－3・11 情勢のなかで自民政権の基盤は歴史的に脆弱であり、命脈が尽きています。特に安倍政権は、その解雇・賃下げ自由、社会保障解体、原発・基地推進、TPP、改憲・戦争は1ミリたりとも労働者人民の支持を得られるものではありません。今年8・15における歴代の反省・不戦さえ投げ捨てた安倍発言は、日本・アジア・世界の労働者人民の激しい怒りを巻き起こしています。この怒りと一つになった国鉄・全産別、反原発、星野・沖縄・三里塚、諸闘争の階級的労働運動・国際連帯の闘いによって早晩の安倍政権の打倒も、さらに資本とその政府そのものの打倒も可能なのです。

資本の利潤のために労働者をどこまでも犠牲にし、生命をも奪う資本の攻撃、合理化に反合・運転保安闘争をもって闘い、国鉄分割・民営化を突破口とする資本の利潤と延命のために労組・団結を破壊し、労働者人民に極限的犠牲を強いる新自由主義に対して、労働者が団結して闘えば、いかなる危機にかられた資本攻勢、全員解雇・選別再雇用・非正規職化にうち勝ち勝利できるという反合・運転保安路線の真価をかけた動労千葉の闘いは、1047 名解雇撤回の100 万人陣形をつくり、それへの「4・9」反動をうち破って国鉄全国運動をかちとり、外注化・非正規職化阻止・被曝労働拒否の闘いとなって、大恐慌－3・11 情勢のなかで全産別、全世界の労働者の希望・結集の闘いとなっています。

そして3・11 によって原発そのものが命より金儲けの新自由主義と戦争・核武装の帝国主義の姿を白日の下にさらし、それへの怒りが社会を根底から変革する力となり、階級的労働運動と結合することで全ての労働者人民が決起する闘いになることを示したのがフクシマとつながるNAZENを先頭とする反原発闘争であり、山本太郎当選です。

そして60年・70年安保・沖縄闘争においてもそうだったように、そして全世界がそうであるように、学生運動が階級的労働運動と一体に変革の一方の主役となる時代に、教育を金儲けの手段とし、外注化・非正規職化を強いる新自由主義大学を全労働者人民の団結と闘いと一体の変革の砦としよう。法大闘争を軸に、東北大から京大、広大でかちとった自治会を全国に広げよう。フクシマ、沖縄に自治会建設をバネに。

私への権力による無実を承知の上での無期は、労働者人民が社会変革の力を解き放って立ち上がる70年と今日の闘いを圧殺しようとするものです。

それは私を獄壁で分断し、孤立させ、潰すことで運動全体を破壊しようとするものでした。これに対して全ての人間が人間らしく生きられることによって自己も家族も、一人一人が人間らしく生きられ、全ての人間が人間らしく生きられることをめざし生き闘うことによって、自らを、一人一人を最も人間的に解き放ち、家族との絆・愛を深め、全ての労働者人民とのつながり、団結を深めるという闘いを、暁子と全ての仲間と共に貫くことで、獄壁を破り、共に勝利していくことを手にしています。獄壁による分断を破り、共に責任をもって全てに向き合い、闘い勝利していくということを手にしています。そのようなものとして、全証拠開示、再審・釈放をかちとり、どんな弾圧も勝利の糧にして共に進みましょう。

資本とその権力が大恐慌－3・11 情勢下、その利潤と延命のために労働者人民を生かすことができなくなり、命脈が尽きていることに対して、生産を担い社会を動かし人間本来の共同社会を実現する力も労働者の団結の力、労働者人民の団結の力で職場、学園、地域、全国、全世界に拠点を作り、資本・権力を打倒し、労働者人民が主人公として自らを解き放ち、誰もが喜びをもって人間らしく働き生きられる、人間本来の社会を手にするために、共に生き、共に闘い、そして勝利しましょう。

◆田中 康宏

国鉄千葉動力車労働組合・執行委員長

第74 回定期全国大会の開催を心よりお祝い申し上げます。また、日頃のご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

教育の民営化に真正面から立ち向かい、学問と言論の自由をかけて延べ125 人もの逮捕者を辞さず闘いぬかれている法政大学闘争をはじめ、全国で大学自治会の再建・防衛の闘いに立ち上がっている皆さんに心から敬意を表します。

新自由主義政策の矛盾が爆発し、世界中で社会の崩壊が始まっています。安倍政権は民営化・規制緩和、とりわけ「限定正社員」制度や派遣労働のさ

らなる規制緩和など労働規制緩和を全面的に行い、社会保障制度の解体とTPP、学校の民営化などを推進し、医療・介護、教育などの現場を競争原理の下にメチャクチャにし、増税、改憲、原発再稼働などを押し進めようとしています。

しかし、彼らは決して万全ではありません。いつどこからそれがほころび始めるのかにビクビクとしていることが、皆さんの闘いへの弾圧や、国鉄－JR の不当労働行為を認定した白石裁判長の更迭問題などからもあらわです。私たちは9 月25 日予定の高裁の不当判決を許さないため、15 日には総決起集会を開催し、「国鉄改革」の真実を暴き出すため全力で闘う決意です。

また、JR は10 月1 日に計画業務の外注化を行おうとしています。しかし、現場は矛盾だらけであり、これを阻止するため資本の弱点について徹底的に闘いぬく決意です。闘い続ける限り資本は決して外注化を貫徹できないということも確信しています。

国鉄闘争の勝利、階級的労働運動を復権するために本年11・3 全国労働者総決起集会への大結集をよびかけます。ともに頑張りましょう。

◆石井 真一

国鉄水戸動力車労働組合・執行委員長

全学連に結集して闘う学生のみなさん、大変御苦勞様です。動労水戸より連帯のメッセージを送ります。

斉藤委員長をはじめ、日頃から動労水戸の闘いに心を寄せていただきありがとうございます。

動労水戸は、この一年間外注化と福島原発事故をなかったことにする被曝労働との闘いを全力で闘い抜いてきました。昨年10 月1 日、検修構内外注化が強行されましたが、本当にデタラメで安全の投げ捨てに怒り心頭に発しています。

8 月1 日には鉄道サービス会社が、JR に逆に出向させる就業規則に変えられました。鉄道サービスが、独自でプロパー社員を教育することを放棄しました。そんな会社に委託を受ける資格もないということです。私たち出向社員は、技術教育のために行くという当初の目的も反古にされています。

さらに JR 東日本は、今年の 10 月 1 日に、構内計画業務と誘導業務を外注化しようとしています。金儲け第一の新自由主義を貫徹し、労働者を低賃金で無権利の非正規雇用で落とし込める外注化攻撃に、全力で闘う所存です。

また、JR 東日本は、福島第一原発から 10 キロ地点にある竜田駅まで、常磐線を延伸しようとしています。8 月末から保線区と下請け会社に線路の整備を指示しています。許すことは出来ません。避難区域を次々と根拠も無く解除し、除染が済んだと嘘をついて、住民を戻そうとしています。安倍政権と東電は本当に悪です。絶対に倒しましょう。その端緒は、山本太郎さんの当選で切り開かれています。

全学連は、京都大学で、広島大学で、次々と学生自治会を再建し、原子力村を支えてきた御用学者の足元から突き崩す闘いに勝利しています。若者が正義感に燃えて、先頭で闘うことは社会を変える原動力です。本当に力強い存在です。共に新自由主義を打倒し、原発をすべて廃炉にし、福島原発事故を収束させるまで、共に闘いましょう。労働者と学生の未来を切り開きましょう。

◆首都圏青年労働者集会実行委員会

全学連第 74 回定期全国大会おめでとうございます。

3 月春闘集会から 4・26 自治労全国ストライキ、5・1 メーデー、沖縄、6・9 国鉄闘争全国運動などを激しく闘いぬき、職場を軸に階級的労働運動の前進に向かってやり抜いてきた私達の闘いは、7 月参院選闘争を通して、首都東京において 100 万の労働者階級の怒りを解き放っています。

それはたとえば J P 労組大会において本部方針に 3 割の代議員が反対という事実上「分裂」状態を作り出しています。自治労大会では 812 筆の国鉄署名が集まり、日教組大会においても労働者階級の怒りが解き放たれ、連合支配が瓦解を始めました。

その基軸にある国鉄においては動労千葉の反合理化・運転保安闘争路線が 3・11 福島原発爆発事故以降の動労水戸の K544 運用、被曝労働阻止の闘いは、福島県民に対する棄民政策を推し進め、原発再稼動をねらう日帝安倍政権と J R 資本に対して、被曝労働絶対反対の闘いとしてついに労働組合の壁

を越え国労郡山工場支部が共に立ち上がり、点から線、そして面へと拡大する闘いとして、全 J R、全鉄道労働者に拡大する路線的な地平を獲得し、全国・全世界、とりわけ原発労働者に対して圧倒的な展望を指し示しています。

2013 年前半の闘いが切り開いた地平は階級的労働運動の登場と連合をはじめとする体制内労働運動の崩壊という決定的な情勢を切り開いています。

2013 年の階級的労働運動の強力な前進が、9・25 反動判決と徹底的に対決し粉砕することによって巨大な展望を切り開くことができる情勢を圧倒的に切り開いているのです。

この闘いの地平から東京・首都圏の戦闘的な労働運動の中心軸として動労千葉・動労水戸をはじめとして、職場で資本と非和解的に激突している労働組合の仲間達が集まり 9 月決戦、とりわけ 9・15 と 9・25 の勝利と職場の激烈な攻防をどのように一体的に闘い勝利させ、動労千葉労働学校でマルクス主義を学びそして職場で闘った実践的教訓を東京労働学校でさらに実践的に深めていくと同時に、首都東京において階級的労働運動を圧倒的に復権するための職場闘争機関として、首都圏-闘う-労働組合-「生きさせろ！」会議 (Strike) を準備しています。青年労働者は「Strike」を東京の労働運動の軸として職場での資本との非和解の闘いと階級的団結をさらに拡大させ、9 月決戦の勝利から 10 月外注化阻止、11 月集会 1 万決起を勝ち取る準備を開始しています。

最後になりますが、この新自由主義の崩壊の中で私達青年・学生が何のために生きるか。それは理屈ではなく、その存在ゆえ「労働者階級の自己解放」を欲しているということだと思います。そしてこの時代を変える力は私達、青年と学生の「こんな時代を変える」という目的意識性と行動にかかっています。共に闘い、若い世代が希望を持ち、生きられる輝かしい未来を闘いとりましょう。

◆三浦 正子

婦人民主クラブ全国協議会・代表

全学連第 74 回全国大会の開催おめでとうございます。

みなさんの日頃からの活動に、婦人民主クラブ全国協議会の仲間は心から

励まされています。特に昨年の京大同学会に続く、広島大学の学生自治会を40年ぶりに再建されたニュースは感激でした。このことは私たちだけでなく、膨大な労働者人民の希望であることをみなさんにお伝えしたいと思います。国家権力がこの時代にどれほど学生自治会建設を恐れているかは、4月の法大弾圧で広島大学や東北大学の自治会委員長や委員長候補への弾圧を行ってきたことにも明らかだと思います。見事その弾圧をも打ち破ってたたかいぬいていることは本当にすばらしいことです。

みなさんの掲げる「教育の民営化」粉碎！学生自治会を蘇らせ、「原子カムラ」を大学から追放しよう！ということに大賛成です。このことは、学生や青年労働者だけでなくすべての労働者・労働者家族の現在と未来にとって決定的に大事なことです。

最末期の帝国主義は、破綻した新自由主義の攻撃をかけてくる以外にありません。1%の金もうけのために、99%を犠牲にするばかりか、社会・地球全体の生きとし生けるものすべての生存を断つほどのことをやっているではありませんか！福島第一原発の汚染水漏れの現状、子どもたちへの甲状腺ガン発生18人（疑いも含めると44人）、青年の自殺者の増大、世界的な戦争、飢餓 etc. しかりです。この中で大学が独立法人化して以来顕著に御用学者がはびこっていることに激しい危機感を覚えます。およそ学問・真理の探究にも値しない資本の愚劣な追随者たちをそのままにしてよいはずはありません。しかし、絶対にこんなことに学生も研究者たちもいつまでも黙ってなんかないません。それを現実の見える団結の形＝学生自治会にしているのがみなさんの全学連の運動だと思います。

動労千葉や動労水戸、国労郡山工場支部のたたかいかや、山本太郎さんの参院選挙闘争から始まって、連合支配を突き崩す自治労・日教組・JPなどの労組での大流動化も始まっています。私たち婦人民主クラブ全国協議会も8月末に第30回全国総会を開催し、新自由主義とたたかう女性解放運動をつかんできたわたしが情勢を切り開き決定しているのだと確認しました。闘う労働組合を職場で蘇らせ、地域でこの社会を根底から変革する団結を組織する組織として婦民全国協は進むことを誓います。

福島で、沖縄で、三里塚で反戦・政治闘争の先頭に立ってたたかっている全学連のみなさんとともに私たちも進みます。

今大会の大成功と全学連運動のますますの発展を祈念してメッセージにかえます。

◆富田 晋

沖縄北部合同労働組合・執行委員長

『復帰』41年を迎えた沖縄の現状は大失業・大恐慌と革命という情勢の中で激しい流動が新自由主義と対決する労働者民衆の決起を作り出す段階へと発展しています。

安倍首相はアベノミクスという既に破綻を開始したバブル的幻想を使って、沖縄・福島圧殺攻撃を強めています。それは沖縄の労働者数の非正規率が全国一位であることと比例しています。国鉄を軸に基地労働者を中心とした沖縄の労働者階級の戦闘的闘争の発展・復権を切り崩す策動が強められています。

同時に安倍はオスプレイ追加配備・辺野古新基地建設という米軍再編を貫徹しつつ、TPPへの参加決定と尖閣列島(魚釣島)の国有化を通じたアジア諸国への戦争挑発・対米対抗戦略を継続しています。『侵略戦争を通して資本主義の危機を突破する』これは沖縄・福島の圧殺を抜きに貫徹は出来ません。

しかし、この激しい分断攻撃の中で既にヘリ墜落(8/5)に抗議して宜野座村・村民総決起集会が1100名(村民の2割)の結集で勝ち取られています。新自由主義と対決する絶対反対の今の時代における新しい団結が職場・学園・地域から創造的に発展を開始しています。まさに、戦時下の沖縄での闘いの発展と指導部の形成が待たなしに求められています。

先の参議院選挙における山本太郎氏の66万票獲得の勝利はこうした沖縄の闘いへの大きな激励として受け取られています。山本太郎氏が「原発は労働の問題」として訴えた事は明らかに国鉄闘争の中から訴えられた事を意識的に掴んだと確信しています。山本太郎氏の勝利は沖縄への激励であると共に私達の闘いが100万の決起を作り出す中味を持っている事を証明しています。

5月沖縄闘争の中で私達は「『復帰』とは国境を越えた労働者の団結を破壊する為に行われた国家を賭けた分断攻撃であった」事であったと今までの歴史認識を変える新たな総括を打ち出しました。だからこそ沖縄の闘いは国鉄を軸とする事で新自由主義との対決を明確とし、その闘いが「安保の最大

実態は基地労働者」である事を鮮明にし、基地労働者を中心とした沖縄の労働運動の戦闘的な復権が国際連帯と国境を越えた革命の団結を生み出す事を訴えました。

この提起は今までの沖縄の歴史認識を再度、反帝国主義・反スターリン主義の観点から捉え返し、沖縄闘争と全国の闘いを担う主体が労働者である事を思想的に奪還する挑戦としてありました。私達はその第一歩を踏み出したと考えています。

いま一つ重要な事は鉄道がない沖縄で「国鉄を軸とする」事を沖縄の私達が据えきったことにあります。その意味は沖縄の現状=労働運動組織率 10%以下の現状は『復帰』攻撃とそれに連なる国鉄分割民営化による非正規化・外注化・民営化攻撃が核心であった事を動労千葉の闘いから学び、困難な中でゼロから国鉄闘争を闘い抜く中で新自由主義との対決こそが全ての闘いの分断を乗り越え、一体的に闘える事を教えました。

『復帰』は「沖縄だけが差別的に扱われている」「本土人は基地を本土で受け入れろ・血で償え」という血債主義の思想を沖縄に植え付け、スターリン主義的な米軍解放軍規定を発祥とした『独立論』は現在は「国連に独立を承認してもらおう」と形を変えて存在し、分断を継続しています。5月沖縄闘争はそれに対して全国の学生・労働者の闘いは国鉄を軸とし、新自由主義と対決する事を通してこうした分断を乗り越えられることを明確にしたのです。

5月沖縄闘争でこの中味をはっきりさせていく中から新たな沖縄の学生の歴史的な決起と団結が作られています。彼らは大学の授業内容や大学の実態から大学の腐敗と破綻性を暴き、大学の腐敗が膨大な青年労働者に絶望を与え続けてきた事をはっきりさせました。この闘いは沖縄の青年労働者へ大きな影響を与えています。

参加し、学生の訴えを聞いた青年は「大学出れば良い仕事にありつけると思った。僕が大学出ていないからダメなんだ、意見を言っってはならないと思ってきた。でもあの学生達を見たらそうじゃない。良い大学に入っても好きな事を言えば弾圧されている。僕がこういう状況に意図的に貶められていることが分かった。これはおかしい」と話しました。

学内での国鉄闘争を訴え、教育民営化を粉碎する新自由主義と対決する路線が学園の団結を甦らせることであると同時に青年労働者が置かれた現状

を暴き、青年労働者が自らの団結に確信を持って生きる力を与えるものだと訴えたいと思います。

皆さんの闘いはそれほど、日本労働者階級にとって最も重要で歴史的に決定的な存在としてあるのです。法大・京大・広大・沖大・福島大、全ての大学での一つ一つの全ての闘いが光輝いています。何一つとして無駄な事はありません。私達は皆さんと共にこの道を歩んでいきたいと考えています。

新自由主義と対決し、学園・職場の団結を再生する事を通して、核基地としての沖縄米軍と核製造工場としての原発を全て撤去し、国境を越えた団結を生み出す中から資本家の最後の悪あがきをやめさせ、プロレタリア世界革命を実現しようではありませんか!!

その為に全力で9・15・国鉄集会へ結集しましょう!!

その力で11月労働者集会へ1万の指導部建設を勝ち取ろう!!

原発・基地の全撤去に向けた100万決起の爆発を継続して作り出そう!!

獲得すべきは世界だ!! 共に最後まで!!

◆織田 陽介

すべての原発いますぐなくそう！ 全国会議（NAZEN）・事務局長

全学連第74回定期全国大会おめでとうございます。

私ども、すべての原発いますぐなくそう！全国会議は、福島第一原発事故を受けて、なんとしても全原発を廃炉にするために集まり活動しています。ドイツへの渡航や、参院選での山本太郎氏の勝利、保養運動など、おかげさまで忙しく、また学びある活動を続けることができています。

福島第一原発における汚染水漏れ（漏れというレベルではないのですが）は、とてつもないレベルの、新たな原発事故といえる事態です。レベル3というのは、1999年の東海村JCO臨界事故と同じだそうです。ウランの20時間におよぶ臨界状態、至近距離での3人の作業員のうち、2人は死亡、1人は重傷、公式発表でも667名の被ばくとされています。とりわけ死亡した2人の労働者については、細胞が生まれ続け生きていく機能そのものが破

壊され、全身が包帯の状態で無惨にも亡くなっていきました。廃炉計画の破綻と海洋汚染。国家的な被ばく隠しとの闘いや、新たに求められる放射能対策など、今までのやり方を覆す必要性を運動の側も感じざるをえません。こんな状態で原発の輸出や再稼働を公言してやまない安倍政権とはいったいなんなのでしょうか。

今回の事故、聞けば聞くほど労働者の力をなめた政策、社会のあり方が問われていると思います。汚染水を扱うタンクを、溶接もせずにはボルトとパッキンで組み立て、底にもボルトがあるためにどこから漏れ出ているかもわからない状態。パッキンに至っては5年しかもたないものを使用。現場で集まる技術をもつ労働者たちは、あまりのレベルの低さ、仕事のくだらなさに、嫌気がさしていると聞きます。労働者の持てる力もまったく引き出せない、お粗末な政府と東電、こんなものが歴史上、未曾有（みぞう）の重大事故を乗り越えることなどできないのです。

水面の位置をはかる測定器もタンクにはついていないため、労働者が巡回して水位を確認する以外にないとのこと。漏れ出た汚染水の近くは、100～1800ミリシーベルト毎時という、2日で発ガンするようなレベルの放射線量です。ここを巡回させ、わざわざ被ばくさせるこのあり方はいったい何なのでしょうか。

労働者をなめきって、命すらないがしろにして使い捨てていくような政府や企業のあり方が、原発事故をさらに深刻なまでに問題を拡大させています。この歴史的危機を乗り越える力は、労働者自身が立ち上がり、国家的被ばく隠しと闘い、この社会のあり方を根本から覆す闘いとともに、自分たちの労働の誇りを取り戻していくこと以外にあり得ないのです。

来年3月のJR常磐線における竜田までのさらなる原発に向かっの延伸と帰還キャンペーン、それと一体の補償の打ち切りに対して、動労水戸や国労郡山工場支部の労働者たちが闘いに立ち上がっています。理不尽な国家、資本ととことん闘い抜き、この世の中を変えましょう。

労働者が団結してこの社会を変えていく、団結しさえすればそういう力を持っている、こうした信念で原発廃炉へ闘っていきたいと思います。

学生のみなさんの大学キャンパスでの闘い、街頭での闘いも期待しています。活発な議論のもと充実した大会となることを願っております。

◆岡邨 洋

全国水平同盟・委員長

全学連74回定期全国大会おめでとうございます。学生のみなさんの日々の奮闘に敬意を表します。新自由主義大学の攻撃をうち破り、京都大学全学自治会同学会の再建、広島学生自治会の再建を勝ち取りました。これは全学生が待ち望んでいた大学を学生の手で奪い返す闘いです。全国の大学の学生に向けた闘いの号砲です。法大闘争での逮捕を乗り越え1000人集会を開催し、学内における広範な怒りを巻き起こしています。

西郡支部はみなさんの闘いに勇気と元気をもらっています。

私たちは、7月14日、「今再び部落解放へ新たな宣言を発するときが来た」と呼びかけた部落解放の新たな全国組織・全国水平同盟がついに結成しました。西郡の地で青年労働者を先頭に多くの地元・地域と部落のきょうだい、学生・労働者・労働組合が全国から350人が結集し大成功を勝ち取りました。部落解放運動の歴史を変える感動的な結成大会でした。

本大会で、部落解放が非正規職撤廃を正面課題に据え、職場、地域に労働組合をつくりだす事。部落民自身が労働組合に結集し、労働組合を建設する事。

そして労働者階級の団結で階級的労働運動で解放運動を勝ち取っていく事をはっきりさせました。全責任勢力として登場していく真の部落解放とは、八尾北・西郡闘争16年の実践の闘いが、地域の拠点労組、八尾北労組と関西合同労組と共に労働組合を建設し、組織拡大へすでに取り組み挑戦しています。この実践の闘いこそ、全く新しい解放運動の路線として確立してきました。

水平社結成以来91年、既成の解放同盟は、労働運動と部落解放運動をバラバラの運動にして資本、国家権力と闘わず、差別を許さないという糾弾運動をやって来ました。しかし労働者に対する差別糾弾では、国や資本家に対する団結した闘いにならず、さらなる分断を自ら生み出してきました。既成の解放同盟や全国連中央の一部の幹部は部落差別を利用して、国・行政と取引をしてもものを取って来ました。しかし、このやり方では、今の新自由主義の攻撃の前に通用しなくなり、資本や国の手先になり、部落の解体、団結を

バラバラにし、民営化・外注化の受け皿に転落しています。腐り果てていません。「闘っても勝てない」と言って闘わず闘いを組織しない。部落民や労働者を闘う主体と見ないこのような解放運動に部落民は嫌気がさしています。

大会後の参加者の感想は、「流れが変わってきたな、八尾市を倒す闘いに向かう！」とか、「参加しているみんなの顔が明るく、元気だった!」、「今までにない多くの人が集まった。これからやるぞという元気がわいてきた!」、「この間、地域での懇談会や相談会に参加していなかった人が来てくれていた。」、「会場からの発言が良かった。」、「涙が出てきた、青年がでてきた」などです。会場全体が一体感で感動にあふれていました。大会後、交流会の各発言と、大会の発言は、結成大会の報告集に掲載しています。

今、労働組合、労働運動の重大性が解放運動を全く新しい地平に押し上げています。新自由主義と非和解で対決し、国鉄闘争を基軸に絶対反対の拡大で闘う全く新しい部落解放の全国組織、300 万部落民の解放と 6000 万労働者階級の解放のために闘う全国水平同盟を全国に拡大していきます。

もう、この社会に誰もが怒りを持ち、変えないと「生きれない」と思っています。人生をかけて、職場、現場、地域で闘う時代の到来です。

今、八尾北・西郡闘争は、国鉄闘争を基軸に闘って、絶対反対の団結で国や資本・八尾市を追いつめて来ました。八尾北医療センター明け渡しの攻防は大詰めを迎えています。昨年の5月24日大阪地裁判決、八尾市の八尾北医療センターの明け渡しを棄却する全面勝利判決ができました。しかし八尾市は控訴審の和解協議で八尾市は「過去家賃分、2400万円超を払え、今後修繕費は一切出さない」という一方的な和解案で経営破産を狙っています。八尾北医療センターは八尾市北部地域の医療機関として医療と介護を担って来ました。八尾市は医療や介護の責任を放り投げています。さらなる八尾市を追撃していきます。応能応益家賃制度・絶対反対の住宅闘争も、山場にきています。住宅裁判が9月19日に10家族の住宅追い出し裁判の証人調べがあります。福祉住み替えを要求して闘っていたYさんの御主人が8月1日に亡くなりました。1階に住み替えできていたらもっと長く生きられていたのです。国・八尾市の更地化攻撃が命を奪ったのです。末光さんを始め、島瀬さん、佃君が八尾市を徹底弾劾し追いつめる証人として法廷に立ちます。大阪地裁午後1時30分、202号大法廷です。当該と共に怒りの渦で傍聴席

を埋め尽くしましょう。

八尾北労組と共に、守る会や関西合同労組と一緒に八尾市全市を一つの闘いにしていきます。全国の闘う労働組合の闘いへ押し上げていきます。

学生のみなさんと再会できることを楽しみにしています。共に闘いましょう。

9・8星野徳島刑務所包囲闘争、9・15国鉄全国闘争、9・29橋下打倒集会、10月三里塚全国闘争、さらに10・31狭山闘争へ、そして、一切をかけて11月労働者集会へ攻め上ろう!

◆鈴木 達夫

弁護士・第二等強弁護士会所属
法大弾圧裁判弁護団長
NAZEN呼びかけ人

フクシマでは、「第二の3.11」とも言うべき戦慄すべき事態が発生した。高濃度放射能汚染は太平洋全域から地球全体に拡がり、まさに人類史的危機の到来である。我々の全存在を賭けて「全原発をただちに廃炉」に決起しよう。「福島連帯・御用学者追放」「新自由主義と闘う労働組合・学生自治会の建設を」とともに勝ち取ろう!

◆森川 文人

弁護士・第二東京弁護士会所属
法大弾圧裁判弁護団

世界は、もはや動揺している。激動の時代だ。この時代において若者であること、学生であることを大いに楽しんでほしい。歴史は動くということを実感し、実践してください。主体的に歴史に関われるのです。まさに、革命の時代。

革命というのは生き抜くための、生きる為の闘いです。だから、皆さんも

生きるということを思いっきり肯定出来る日々を目指して頑張ってもらいたい。その為には「愛」に近づくことだろうか。人と繋がることを大切に、繋がる為に手を伸ばし、差し出し、共に、精一杯生きて行こう！

◆西村 正治

弁護士・第二東京弁護士会所属
法大弾圧裁判弁護団

革命の勝利までやむことのない決戦の時代が始まっています。
新自由主義大学粉砕のため、学生自治会建設闘争の勝利を！
全学連の若い力に期待しています。熱い連帯をこめて。

◆井堀 哲

弁護士・第二東京弁護士会所属
法大弾圧裁判弁護団

暴処法裁判、盛り上がってます。若い力にすっかり感服してます。

◆増井 真琴

法大「暴処法」弾圧被告
法大文化連盟元企画局長

法大闘争勝利 暴処法弾圧2審無罪へ
全学連大会へお集まりの皆さん、おつかれさまです。法大文化連盟OBの増井真琴と申します。織田全学連時代より、全学連の皆様には格別のご支援を賜り、法大闘争を共に闘ってきました。齋藤全学連におかれましても、文連・全学連の鉄の共闘を堅持し、人間の可能性を貶める、あの腐りきった監獄大学に怒りの鉄槌を下しめんことを強く願います。

目下、安部自民党政権の横暴は熾烈を極めています。去る8月30日には、私が運営に参加しているシェアハウス池袋りべるたんの居住者かつ、科学喫茶コペルニクスの店長であるA同志が「組対法」（組織犯罪対策法）容疑で不当逮捕されました。逮捕以前にはりべるたん、コペルニクス両スペースに公安警察が大挙して押し寄せ、家宅捜索を行っています。公安の主張によると、A同志が「組織的な盗品の売買」に関与しているということらしいのですが、100%デッチ上げ。そのような事実はありません。結局、事件の目に余る不当性から検事は勾留延長ができず、9月1日、A同志はわずか2泊3日で釈放されました。絶対に許すことのできない政治弾圧です。

暴処法で逮捕されたり、組対法に巻き込まれたり慌しい20代ですが、貧困と差別のない社会をつくるため、今後も自分にできることをひとつひとつ、地道に行っていく所存。「法大闘争勝利」「暴処法弾圧2審無罪」へ向けて、共に闘いましょう。